

C-47 乳児服設計に関する基礎的研究(第3報)乳児の成長量の変異について
実践女大家政 ○飯塚幸子 お茶の水女大家政 天野節子 石井万津子
青山学院女短大 磯谷藤枝

目的 第1報において乳児期の成長が急速であることを述べた。第3報では第1報と同じ資料の中に同一個体の追跡による資料が若干含まれていたため、縦断的方法により成長の個体差、すなわち成長量の変異について考察を試みた。

方法 資料は第1報における同一の乳児1316名中から選り出した男児138名、女児106名、計244名である。今回資料は2回以上継続して得た追跡資料と母子手帳に記載されている出生時計測値を加えて使用した。計測日は誕生日を原則としたが、それは必ずしも守られなかったため満月令 ± 2 日として修正を行った。また成長量の分布は正規型に近いものとみなして統計処理を行い月令間の成長量、および3か月ごとの成長量の変異を検討した。研究項目は、身長・下肢長・上肢長・頭囲・胸囲・体重の6項目である。

結果 1)相隣る月令間の平均成長量が最大値を示す時期は男女ともに、6項目いずれも0~2か月の間にある。2)成長量のばらつきの幅が最も大きい月令期は男女ともに、胸囲以外の5項目では0~2か月の間にあり、胸囲ではかなりおくれる。3)12か月を4期(0~3か月、3~6か月、6~9か月、9~12か月)に区分した場合の、各月令期における最初の月令の計測値と、その後3か月間の成長量との相関については、身長・下肢長・上肢長・頭囲・胸囲の5項目は男女とも第1期中程度の負の相関を示すのみである。